

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-110

学校名・団体名	熊本市立城南中学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/j/jyona/n/home/home.htm
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「地域」に根ざした総合的な学習の時間
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校の総合的な学習の時間の取り組みは「地域」というキーワードで1年生～3年生まで系統的に行われている。この地域で育つ子ども達が、地域の方に見守られながら自分たちの住む校区に「誇り」を持って次の世代の地域の担い手として活躍したり、遠くに離れても校区を思い「誇り」に感じたりする生徒の幾重生を目指す。</p>	

1. 時期及び内容について

本活動は、1年生から3年生まで週に2時間ずつの総合的な学習の時間の中で中心的に行われた。1年生の時は「校区を調べ隊」2年時は「校区で働き隊」、3年時は「校区を誇り隊」として系統的に3年間を通して活動を重ねる取り組みである。

【4から9月】

1年生はA 自然・環境、B 歴史・文化、C 教育・福祉、D 地域産業・伝統芸に分かれ、川尻、城南の校区の中でそれぞれのテーマに対し、何を中心に調べるのか、どのような調べ方をするのかをグループで決め、取材のアポイントの取り方を学び、まとめ方を考え、発表を行った。

2年生は職場体験学習を地域の事務所に依頼して取り組んだ。職場へアポイントを取り、事前打ち合わせの日程を決めることやマナー講座を体験し、基本的なスキルを学んだ。1年時に経験したことを生かし、伝統を重んじる和菓子屋さんで体験したり、販売の職種を体験したりなど、自分が選択した職場で仕事をする責任や大変さ、楽しさ喜びを感じることができた。

3年生では、希望をもとに「自然探求」「自然農業」「福祉・介護」「伝統芸能」「伝統木工」「和の文化」「企画運営」のコースに分かれる。

それぞれのコースで地域に在住の専門家を講師として18回の体験活動を行った。

「自然探求」コースは、地域を流れる加勢川について川の働きや地下水のことに学び、実際に川の中に入り、下流域までカヌーを動かした。自然の恵みを感じ、自然との共生を学んだ。

「自然農業」コースは、学校の近くにある畑をお借りして、畝をつくり、トマト、キュウリ、スイカやトウモロコシなどの野菜を実際に育てた。適した時期の収穫や、カラスなどの被害を食い止めながら、自然の恵みと収穫の喜びを味わった。また、カボチャをはじめ、生産した新鮮な野菜を販売する経験もできた。

「福祉・介護」コースは、介護についての基礎的な知識を学び、車いす体験などをまず学校で行った。さらに実際に老人保健施設に出向き、交流を深め、必要な介護をどのように行えばよいかを学ぶことができた。認知症サポーターの資格を得る研修も体験学習の中で行えた。

「伝統芸能」コースでは、大太鼓、小太鼓など鼓による演奏を学ぶことができた。和楽器の難しい楽譜の読み方を学習し、音源を元にリズムを学び、越天楽今様などを演奏することができた。

「伝統木工」コースは、地域の「川尻六工匠」の指導の下、木工製品の製作を行った。自分のいす作りでは自分が作りたいものの設計図をつくり、丈夫ないすを製作することができた。また、協力して図書室用の本の展示棚、ステージにおく台なども制作した。

「和の文化」コースは、川尻で教室を開いていらっしゃる先生に華道・茶道の基本を教えてもらいながら体験を重ねた。また、地域の「開懐世利六菓匠」の指導の下、和菓子を作り、団子を作って販売する生産販売実習も行うことができた。

「企画運営」のコースは今年度のテーマを考えるとところからスタートし、「ハートフル城南フェスティバル」と名付けた文化発表会の運営を企画した。1年生から3年生までのステージ発表及び教室棟廊下、体育館後方、ピロティールにおける展示スペースの計画を行い、全体を見通した会の運営の仕方を学ぶことができた。をさらに当日の運営は、本物の音響機械を使い、舞台と舞台裏を意識しながら順調に運営することができた。

目標を決め、それぞれのコースで学びを深めた後、10月の「ハートフル城南フェスティバル」にて成果を披露する流れで学校全体として取り組むことができた。



【10月】

10月8日「ハートフル城南フェスティバル」(文化発表会)にて、保護者や地域の方、講師の先生方もご招待し、1年生から3年生まで、総合的な学習の時間で学んだことや職場体験学習で学んだこと、教科・特別活動で学んだことを発表した。

1, 2年生は、各コースで調べたり体験したこと、そこから学んだことを新聞やポスターにまとめて展示したり、パワーポイントを使い、ステージ上で発表したりした。

3年生は各コースで学んだことをスライドやパワーポイントを使い発表した(「自然探求」「福祉・介護」)。また、ステージ上でお点前を披露(「和の文化」)したり、実演したり(「伝統芸能」)することもできた。

体育館後方やピロティーには展示スペースを設け、製作した作品や生け花などを展示(「伝統木工」「和の文化」)した。昼の休憩では、茶席を用意し茶をふるまったり、朝から作った団子や収穫した農作物を販売したり(「和の文化」自然農業)などして、各コースがまんべんなく成果を披露することができた。



2. 成果や子どもたちへの効果

全国学力状況調査の質問紙調査の中で、総合の時間に対する子ども達の達成感が本校はとても高い。

総合的な学習の時間を系統的に組み立てていること、地域の人材を活用していること、自分達で活動内容を選び、調査したり体験したりするなど、行動的に活動していることが成果として生きているように思う。

総合的な学習の時間の目指す「生きる力」の育成と地域の良いところを学び、地域に育まれて成長していることを生徒自らが体感できる取り組みは、これからも続けていく必要がある。

熊本地震の折は、本校が避難所になったが、子ども達が来て地域の方々ともたくさん話し交流していた。自らも避難する中、子ども達が炊き出しの手伝いをしたり、ボランティア活動に取り組んだりする姿に地域の中で育っていると実感した日々だった。

今回、講師の先生方の中には、本校を卒業し、後継者として協力してくれた方もいた。「この総合的な学習の時間を中学時代に体験し、2代目を継ごうと思った。」「中学時代の経験があったから、高校を卒業するときに福祉の道に進もうと思った。」などの言葉をうかがった。地域を愛し、地域の文化やつながりを引き継いでいこうとする先輩がいることがとても心強い。講師の先生方もお忙しい中で中学校に関わってくださる、この城南中学校の生徒達を今後もしっかりと育てていかなければならない。